

広島市立北部医療センター安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	当院における嚥下造影検査 (Swallowing Videofluorography : VF) の有用性と摂食嚥下チームの臨床的検討
研究責任者 (所属科名)	福谷 多恵子 (歯科・口腔外科)
本研究の目的・意義	嚥下造影検査 (Swallowing Videofluorography : VF) は、造影剤を用いて嚥下の様子をX線透視下で観察する検査です。 この検査で、肺炎の温床になる誤嚥の有無がわかります。また、嚥下時の各臓器の運動や残留物の有無も観察できますので、これらの臓器のどこに、どの程度障害があるのか特定でき、各々の患者様に適したリハビリを提供できます。さらに、食事形態や食べる時の姿勢の影響の分析をすることで、患者様の最適な食事形態や摂食時の姿勢が明らかになり、リハビリや栄養管理の方針決定に貢献します。 広島市立北部医療センター安佐市民病院は急性期病院です。 急性期では意識障害や全身衰弱などにより誤嚥のリスクが高まります。VFで誤嚥の有無や程度を可視化することで、肺炎予防のための食事管理や体位調整が可能になり、栄養状態が改善することで、早期退院が実現します。また、当院では、医師、歯科医師、認定看護師、言語聴覚士、管理栄養士、理学療法士などが連携した摂食嚥下チームも介入して、治療をサポートしていますので、VFの結果は多職種スタッフ共通の評価指標として、チーム医療の意思決定を支える情報源となっています。 そこで、当院では、2005年よりVFによる早期評価に積極的取り組み、2023年度の年間のVF件数は2,004件でした。これは、全国的に類を見ない多さです。また、それに併せて、2012年より2012年から摂食嚥下チームを設立し、多職種のスタッフが昼食時の患者の食事摂取の様子をラウンドで観察して意見交換するなど治療に貢献してきました。2012年から2024年度の平均患者数は60.5人となっています。 しかし、当院は平均入院日数が短く、2023年度は8.1日です。短期間の中で、検査を行い、診断し、リハビリや治療を開始しなければなりません。われわれは、摂食嚥下チームの一員として、リハビリや治

	療を支持していますが、そこには多くの課題を感じています。 本研究は、当院における2023年7月1日～2025年6月30日の過去2年間のVFの実施状況と患者様の全身状態、栄養状態、口腔状態を検討することで、急性期病院に入院中の嚥下機能が低下した患者様に対する今後の課題を明示することを目的としています。さらに、患者様の摂食嚥下機能を、回復・向上に導くための有用な因子を明らかにし、患者様に貢献したいと考えています。 最終的には、当院のような急性期病院から、回復期病院への転院、自宅退院にケア移行する中で、切れ目のない医療の提供体制の構築を目指しています。
調査方法・研究期間	調査方法：後ろ向き観察研究 データ収集期間：2023年7月1日～2025年6月30日(場合により延長あり)。 研究期間：2026年12月までを予定しています(場合により延長あり)。
該当資料・データ	対象となる患者様 2023年7月～2025年6月に、当院でVFを行った入院患者様。 ★利用する情報 電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。 (患者様の年齢、性別、診断名、担当診療科、入院日数、ADL、身長、体重、VFの結果、カンジダ症の有無、血液検査データなど)
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
共同研究機関	なし
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	担当者：歯科・口腔外科 副部長 福谷多恵子 電話番号：082-815-5211
備考	なし